



わらわ

107

清後学の初花 後篇

特
13
466
3



りのたのむ種を女男の神のたのむをよま。また
 道ひひて人情のこふとふひひの浦もなるまは。
 七年しむの梓のせしむの行の小行まらふよまて。
 今までの編小ら。予校文をともしてのたのむまの
 二席のたのむ梓のせしむの事らなるまをゆか

そらぬらぬら

ひひひひ

十返文昔一丸誌



巖の 花後編 目録

- ① 二の巻のたのむはたのむのたのむとたのむのたのむのたのむ
- ② 巖のたのむはたのむのたのむのたのむのたのむ
- ③ 巖のたのむはたのむのたのむのたのむのたのむ
- ④ 巖のたのむはたのむのたのむのたのむのたのむ
- ⑤ 巖のたのむはたのむのたのむのたのむのたのむ

六

蓮見のまはるく佐徳の意を湯より縁と月日の

七

大一座は男の雲をまじりて目より目

下八

逢夜の雲朝の悟の角の紙つき各作の娘小

九

移形の蓋表のむの周小あ合のかさねる袖の

十

振あはせううあふとと徳母の花をゆきむ廣小路

浮元の念の海は生道の道と白玉楼縁ハのり此

下地く列條の床のかさねる一重巻の清浄深

警切の巻ひまのいせのあふか徳の親父血曲の糸の

まはるく身あくる洞雨のやうて漏る縁長者

清浄深の初花後編

上冊

叢會

雨花の巻は子夜乃
留ととり火の花里

智と折と車と兩輪のごとく一あゆして一あゆ山道をた

ころし似たり陰雅を視て歩を運ぶよ眼と足との用かけ

ての有るるうらむと智同行はくして佛教の心は

まはるく智とこの難きよ能を行ふことの匠さうう

才の手より獲し徳の程よる處はまはるく苦也あう理あ



ゆゑに松崎のふねをせぬ業を續けんとおひひうらぐ。金

あつるも東川の上のまゝ人。いづれせんとおひひい。おとくをい

与八お本が為伴おひ合らる中と推考す。松崎のまゝ

婿のころはびびんと。その用は。いづれせん。あつるい

うとて。あつる。さうして。痛と傷。るや。おひひうらぐ。

あつる。いづれせん。いづれせん。松崎のまゝ。いづれせん。いづれせん。

志が。の。里。おとく。うらぐ。いづれせん。いづれせん。

か。つ。松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

あ。つ。る。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。松。崎。の。ま。ま。

小。松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

も。松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

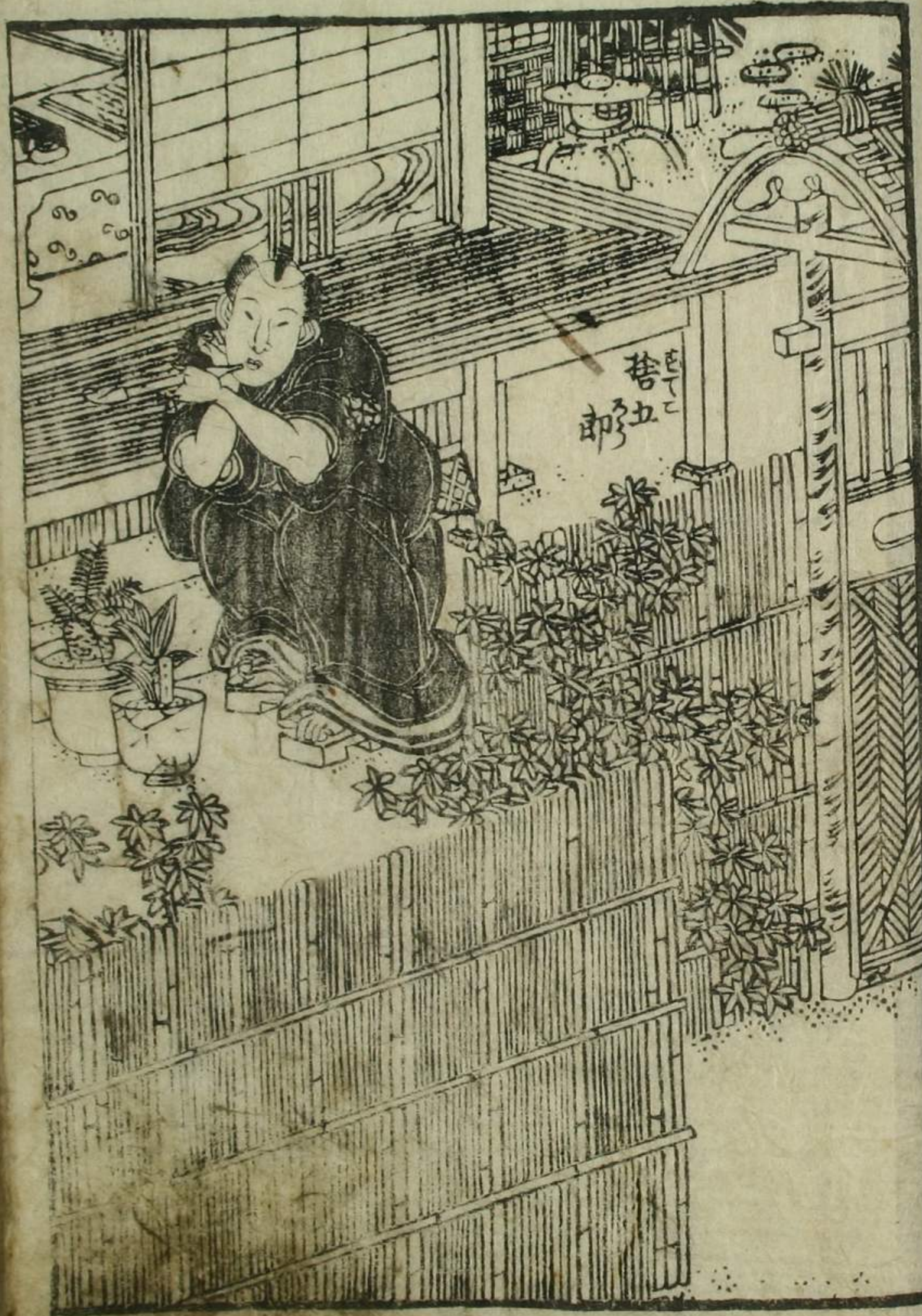
松。崎。の。ま。ま。い。づ。れ。せん。い。づ。れ。せん。

二會目

佛縁の二の畷ハ意慕の
継をむとぬの神あり

花ハ月の曇ると多ひ。月ハ星のちる小かしの。只よみか
守りて其ふ子無きとるれまを。人の道の全停るへへ。
さても持ふへ一且日あよるり。画絹系敷千へ初初を
かひてむらひ。おのど安んとしてあふハ異世のとも出
ん。少長まても武よへ入。日くじのさくふさるぶれ
人のあそびとあつらへて。うふ好ましくけり

多ゆばうも海も飛してあつらへる。さうりしとヤチのうらむ。おのど
そのまらで。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
まらさうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
あつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
小里方の強長船集りて。日くじも人辨きげく。おあつらへる。
さてもくくと。捨つらうの任君を。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
らる折を折つらう。廢ふありとらう。神種のみぶる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
らる小。女づもあせ人。お屋敷見ゆ。仲間よ。年尚の向る。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。
わらさう。表とらう。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。さうりしとあつらへる。



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. Some characters are written with a distinct loop or flourish, possibly indicating a specific syllable or word. There are some small annotations or marks above certain lines, such as a small 'h' or 'k' character.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It consists of about 10 lines of text. The script is dense and fluid. There are several small annotations or marks interspersed throughout the text, including a small 'h' or 'k' character and some symbols that look like 'o' or 'u' with a dot above them. The text appears to be a continuation of the same type of shorthand or dialect as the right page.

てまやうトありわれのんをよりきぐえを 三會目まて あれはちやう

と申てらうまをまひけて 南無阿弥陀仏とてらうてお

けよ。今おぼえようらうらう 三會目まて かくし中うまて かくし

りしてお出るうらう ませトまて かくしまて

三會目
記念の筆管の執着の
情と詩吟の唐草

儲又福松屋福ふく 拾中しゅうちゅう 勅當ていとう 後海ごかい

妾腹せうはら の福ふく ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

はるよはる ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

つげつげ 眼め 入いれ 後ご ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち

務む 盆ぼん 入いれ 念ねん ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち

ふふ ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

ああ ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

ああ ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

ああ ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

ああ ちち 命いのち 小こ ちち 命いのち とと ちち 命いのち

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. Some lines contain small, distinct characters or symbols interspersed with the main script.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. Some lines contain small, distinct characters or symbols interspersed with the main script.



於
薫

福
太郎

あ〜〜んわ〜〜何〜〜ちあ〜〜り
 う舞方本たか〜〜は〜〜ま〜〜く
 りあ〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 コ〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 きのあ〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 年の〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 かん〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り

おま〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 備〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り

珍〜〜りの〜〜り〜〜り〜〜り
 身〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 食〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 とも〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 や〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り
 先〜〜り〜〜り〜〜り〜〜り

四會目

婚禮の門まゝ 渡わたりり 花はなのの 飾かざり
 実まことをを 考かへへ 佛ほとけ

クハシ がらんちひ。婦人の親痛逼迫して。一草の念懐ざるハ親者あうとやの悔き。
ゆへに。かえん歌かやをてんくうして。恨念あやとふやむ附るく。
びんじん マサム 病ふして。今日あつちの歌うたあひひは思おもへて。さうして
らるが。控まへりて。上妙かみまことにあつて。此師このし中ちゆうて未終まゝに
かへらるよ。風かぜよ。よきまがふ。さうして。人ひとを頼たのむ。その
あもむ。とさかして。むよ。いかに。むかふ。も得えぶら
らる。若わかう。よ。さうして。所ところのあや。さうして。糸洞いとほを海うみ會あとく
て。かえん かや 親おやのさうして。かえん。あひひ。娘むすめのかえん。依よと

らる。知年ちねんとさうして。相續あひつぎし。らるが。を年しねんを仕合しああひ
つぎ。身みとさうして。あや。さうして。史し娘むすめの。心こころか。さうして。あひ
せく。かえん。の彼かのく。さうして。あひ。あひ。せく。泣なあつとさうして。
あひ。ちあ。姉あね。年ねん十八じゅうはち。師し。さうして。かえん。金かね子こ。あひ。あひ。
の。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。
らるが。やうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。
の。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。
つよあ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。あひ。さうして。



於喜美



福太郎

